

参考資料

1. 軽度者の状態像の特徴

- ①死亡原因疾患と生活機能低下の原因疾患とは異なる
- ②要介護高齢者の状態像には3つのモデルがある。
- ③要介護度の悪化のプロセスには特徴がある

2. 現行サービスの課題

- ①ケアマネジメントの問題—補完型単品プラン
- ②訪問介護の問題—生活支援(家事援助)中心
- ③通所サービスの問題—集団ケア
- ④福祉用具の問題—状態像との不適合

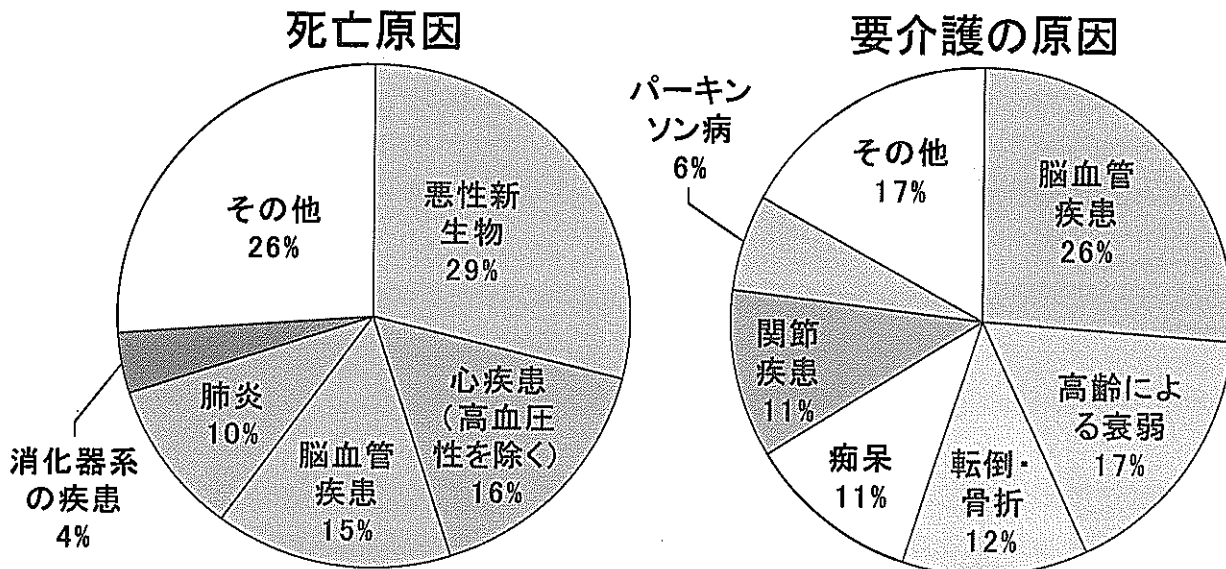
3. 介護予防のエビデンス

1. 軽度者の状態像の特徴

①死亡原因疾患と生活機能低下の原因疾患とは異なる

死亡原因疾患である生活習慣病予防に加えて、今後は、要介護状態の原因となる生活機能低下予防の強化が必要

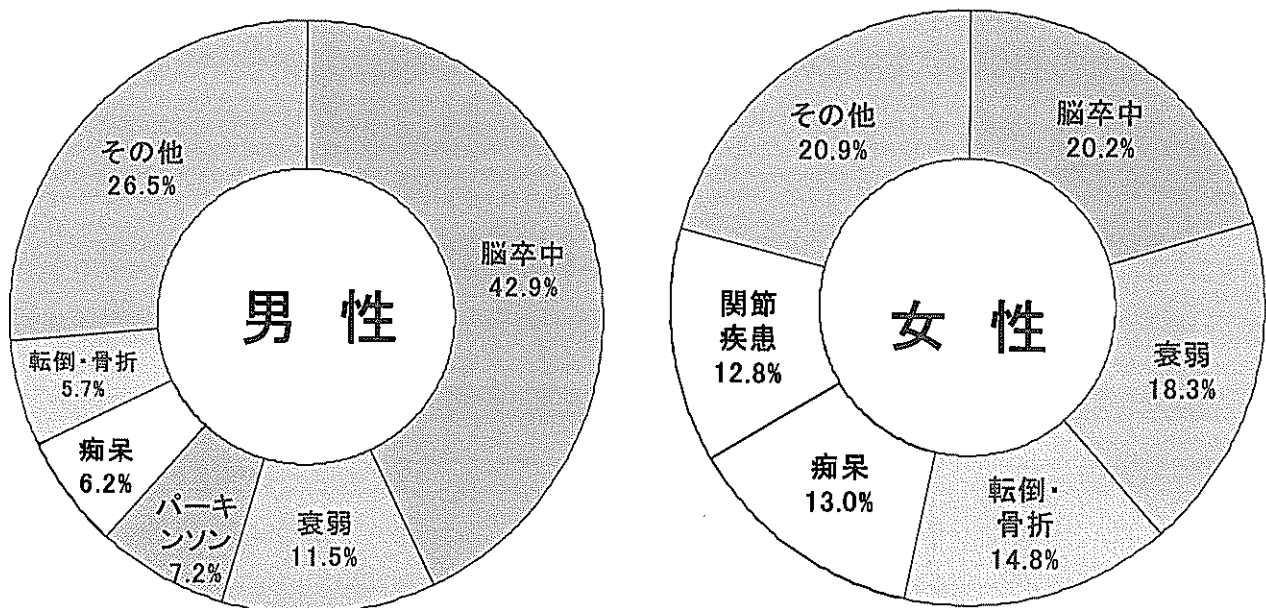
65歳以上の死因と要介護の原疾患



資料:人口動態統計及び国民生活基礎調査(2001年)から65歳以上高齢者について作成

介護が必要となった原因(男女別)

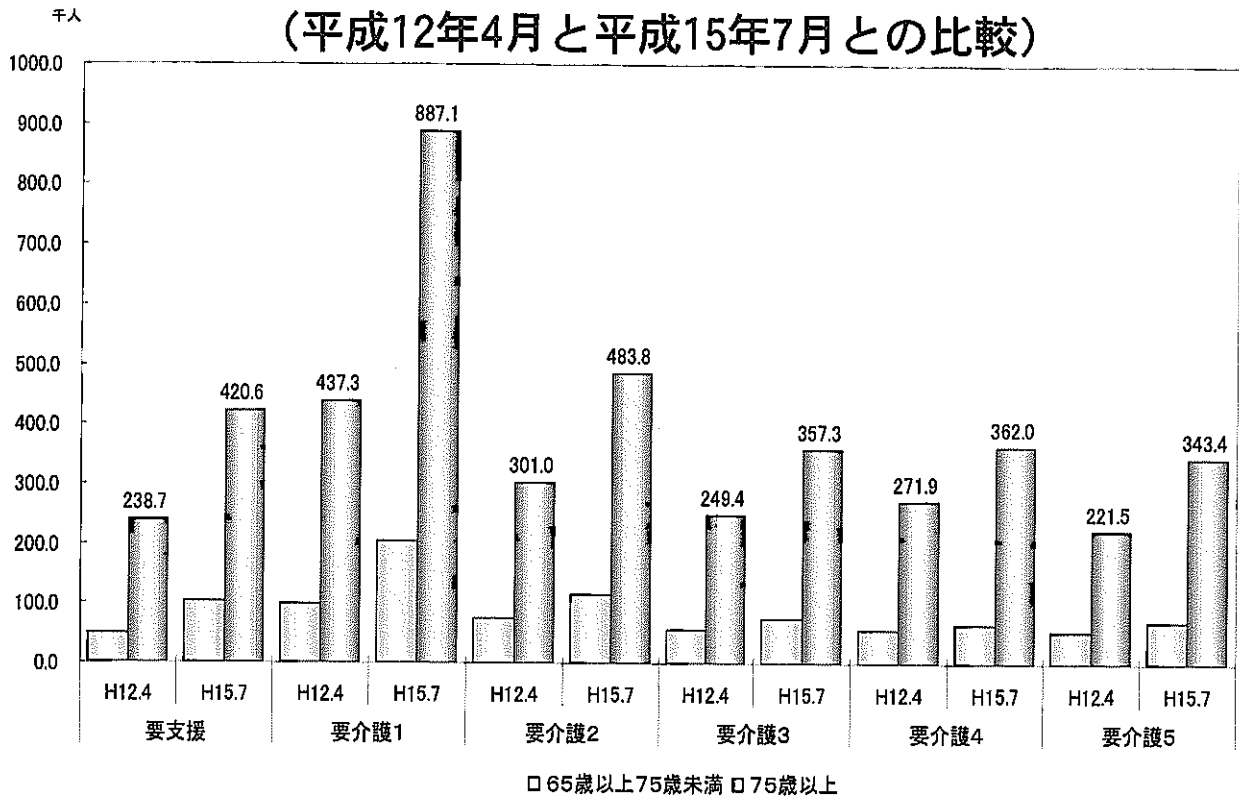
- 男性は脳卒中が約43%。女性原因が多様で、脳卒中以外の衰弱、転倒・骨折、関節疾患を併せた割合は約46%。



資料:厚生労働省「国民生活基礎調査」(2001年)

要介護認定者に占める前期高齢者と後期高齢者数

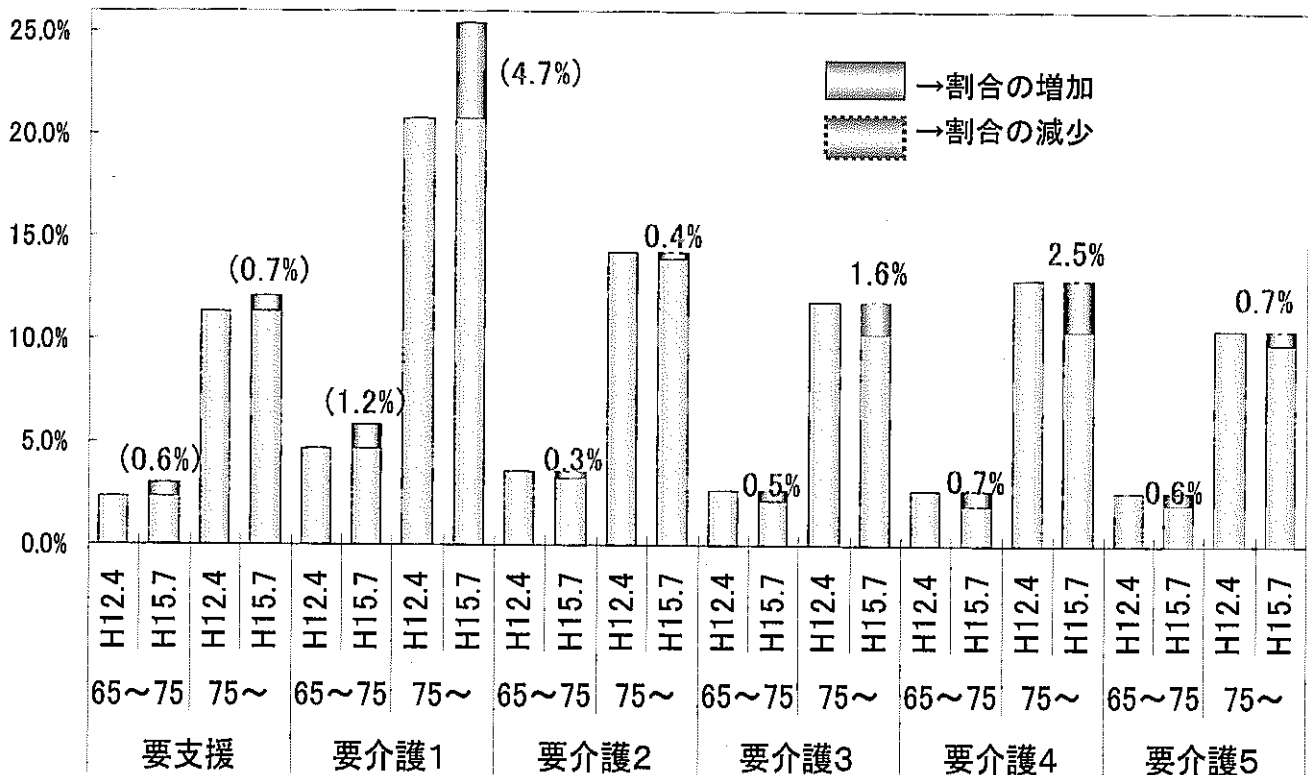
(平成12年4月と平成15年7月との比較)



資料 介護保険事業状況報告(2003年12月9日時点集計)

認定者に占める前期高齢者と後期高齢者の割合の変化

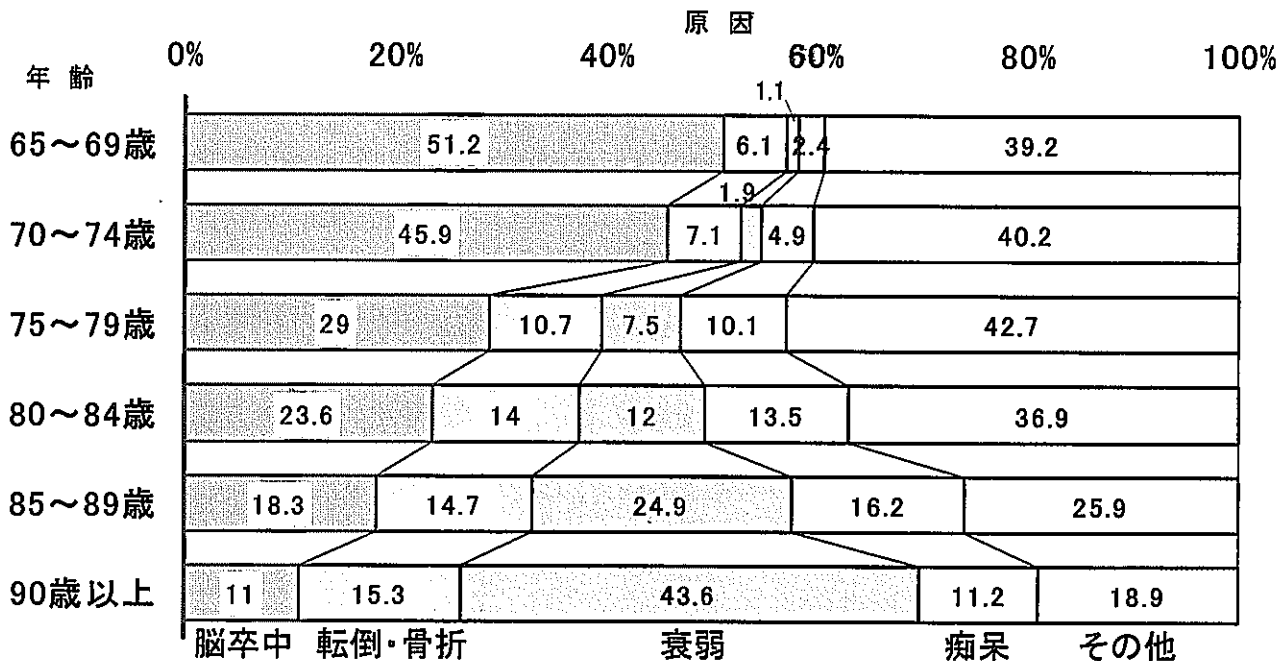
(平成12年4月と平成15年7月との比較)



資料 介護保険事業状況報告(2003年12月9日時点集計)

介護が必要となった主な原因（年齢別）

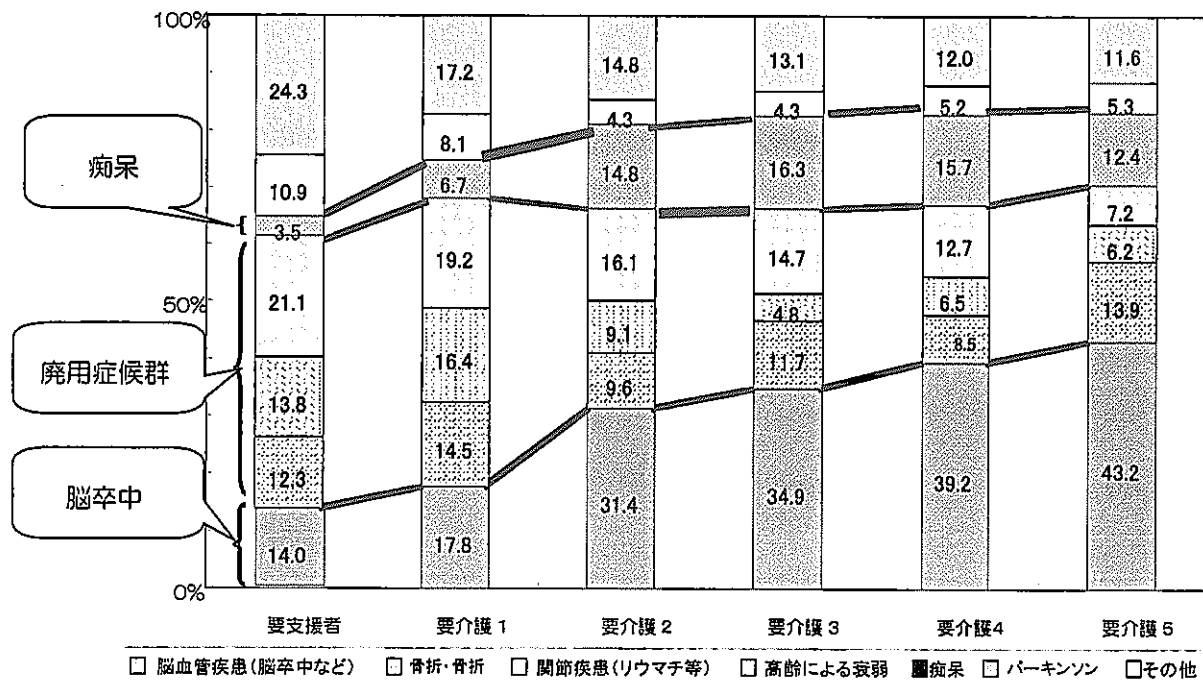
○ 65歳以上75歳未満の前期高齢期は、脳卒中が多いが、75歳以上の後期高齢期は、衰弱、転倒・骨折が多くなっている。



資料 厚生労働省「国民生活基礎調査」(2001年)

要介護度別介護が必要となった原因割合

～軽度者の方が原因が多様～



資料 厚生労働省「国民生活基礎調査」(2001年)から厚生労働省老健局老人保健課において特別集計(調査対象者:4,534人)